

下水道事業に関する中長期計画

札幌市の下水道は、老朽化した下水道施設の急激な増加、集中豪雨の増加や大規模な地震の発生、将来的な人口減少に伴う下水道使用料収入の減少といった財政状況の悪化が懸念されるなど、大変厳しい状況に直面しています。

このような状況を踏まえ、下水道河川局では、令和2年度から10年間の下水道事業の方向性を示す「札幌市下水道ビジョン2030」を、令和2年8月に策定しました。

また、令和3年7月には、ビジョンを実現するための具体的な行動計画として、令和3年度から7年度を計画期間とする「札幌市下水道事業中期経営プラン2025」を策定しました。

下水道事業を取り巻く情勢の変化に対応し、将来にわたり良好な下水道サービスを提供するため、これらの計画に基づいて、着実に事業を進めていくとともに、投資と負担のバランスに配慮しながら、健全な財政運営に努めていきます。

基本方針

札幌をささえる下水道を次世代へつなぎます

基本目標

- I 安全で快適な暮らしと良好な環境を守ります
- II 健全な経営を持続します
- III 幅広い世代への理解を促進します

ビジョンとプランの要点

以下の3つの対応を重要な要点としています。

- 1 急激な増加が続く老朽化施設への対応
- 2 増加する自然災害への対応
- 3 一層厳しくなる経営環境への対応

SDGs(持続可能な開発目標)の推進

下水道事業においても、SDGsの視点を意識し、取組を進めていきます。



ビジョンとプランの構成

基本目標を達成するための、7つの「取組の方向性」と合計14の「取組内容」で構成します。

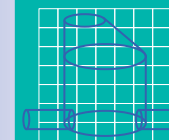


札幌市 下水道ビジョン2030

検索

札幌市 中期経営プラン2025

検索



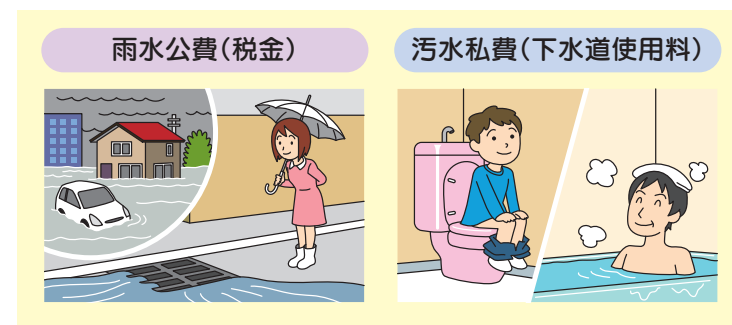
下水道財政

下水道事業では、収支状況が明らかになるように、一般会計から独立した「下水道事業会計」を設けています。その内容は、施設の維持管理などにかかる収入と支出(収益的収支)と施設の建設・再構築などにかかる収入と支出(資本的収支)とに分かれています。

雨水公費・汚水私費の原則

下水処理に係る経費は、大きく2つに分けられます。1つは、雨水の処理に係る経費で、自然現象に起因する経費であることから、主に税を原資とした公費(一般会計繰入金)で賄います。

もう一つは汚水の処理に係る経費で、こちらは汚水を排出した使用者に起因する経費のため、使用者の私費(下水道使用料)で賄います。このことを「雨水公費・汚水私費の原則」といいます。



収益的収支と資本的収支

収益的収支

収益的収支は、施設の維持管理などにかかる収入と支出です。

■収益的収入

主に下水道使用料及び一般会計繰入金で構成されています。

■収益的支出

管路の調査や修繕及び処理施設の運転や修繕などの維持管理に要する費用(維持管理費)と、減価償却費や企業債支払利息(資本費)で構成されています。

資本的収支

資本的収支は、施設の建設・再構築などに要する支出とその財源です。

■資本的収入

主に国庫支出金及び企業債で構成されています。

■資本的支出

管路や処理施設の建設・再構築などにかかる費用(建設事業費)と、施設の整備のために借り入れた企業債の元金償還金で構成されています。

令和4年度決算

